

# KOZMOS

コスモス No. 89 1990 春

特集

わからない事がわかる所

それが

としょかん



## 特集

# わからない事がわかる所

## —それが図書館—

### 聞きまくってトクしよう

河 地 和 子

子供のころ、親に何かを質問して「自分で調べなさい。人に聞いたのでは勉強にならない」と、言われたことはありませんか。すごすごと勉強部屋へ戻りましたよね。親は質問に答えるのが面倒な時、あるいは、答えがわからない時、「他人に頼ってはダメだ」などとうまいことを言うのです。本当は問題解決の方法ぐらい教えるべきなのです。何をどう調べるかを。

さて、わが東洋大の図書館には、問題解決の方法を教えるプロがいます。「質問されること」、「頼りにされること」が仕事なのです。たとえば「1920年ごろのアメリカの人口を知りたいのですか……」と、あなたが聞いたとする。すると、「そうですね。〇〇〇はご覧になりましたか。あるいは、×××にも載っているかも知れません」と答えてくれる。それだけではない!! そう答えながら、彼（女）らの足は、〇〇〇や×××のほうに、さっさと向かう。

彼（女）らは確信を持っていても、なぜか、自分の目で確かめなければ気が済まないという職業病を持っている。われわれは、そこに付きこむべきだ。〇〇〇や×××を参考係が手にするや、「どのセクションに出るのでしょうか」などと言って、話を引き伸ばし、彼（女）らが自分のそばになるべく長くいるようにしむける。そして質問をつぎつぎ連発していくことだ。

時々、そうやって参考係の人にへばり付いている学生を見かける。私は「ヤットル、ヤットル」と、ほくそえんでそばを通り過ぎる。何を隠そうそういう私も解からないこと、困ったことがある

たびに彼（女）らのところに駆け込んで「問題解決」をしてきた。みんなもレポート書きに必要な参考書についてなどなど、なんでも相談してみたら? いろいろ聞いて、いっぱいトクして下さい。

(文学部助教授 かわち・かずこ)

### 本好きになること

谷 地 快 一

ことの是非はともかくとして、大学受験までの学習はどれほどの量を覚えているかで判定され、ランク付けされてきたに違いない。そうした知識の多くは、判定された後の学生にとって多くは無用のものとなり、忘れ去られる結果となる。

分野によって異なる点はあるが、大学の学習は、たぶんそれとは違う。教師が学生に与える知識の量は多くはないし、その量を問題にもしない。知識の量を問題にするペーパーテストは、あくまで便法に過ぎなかったわけである。したがって、単位修得のため最低限の努力をして、余暇の拡大をはかるという生活スタイルは、それで卒業できるにしても、たぶん間違っている。

大学生のあるべき姿は、図書館の機能を考えるときよくわかる。図書館は八方に門戸を開いて利用者を待っている。サービスのためである。図書館で最も大切なことはこのサービスであって、時に貸し出された本の破損や盗難があるにしても、そのことでサービスを縮小させたりはしない。むしろ副本をいくつも用意して、次に来る利用者へのサービスをめざしている。それはなぜか。大学の扱う分野は広く、講義は学生自らにテーマを発見してもらうべく、手掛かりを与えようとするものだからだ。定期試験の前の試験勉強のためではない。

誰も手をとって教えてはくれない自分のテーマ



を発見するために、新年度の初めにまず何をすべきか。ようやく好きな分野に学べるのである。講義要項にあがっている参考図書を、いつでも利用できるように、その請求番号を調べておくことである。そして、それがどの書庫にあり、どんな表紙をして、どのくらいの重さがあるかを実感することである。本好きになること、一言でいえばそんなところ。

(短期大学助教授 たにち・よしかず)

## メディア・ルネッサンス

森 川 滝太郎

長い人類の歴史の時間と空間を超えるメモリーが書籍ですから、そのメモリーを我々の所に呼び寄せることができれば、大抵のわからない事がわかるようになるはずです。その膨大なメモリーを汗牛充棟のたとえどおり何十万冊という書物の形で収集し保存している所、それが図書館です。その中から、我々の要求にマッチするものを探がし当てさえすればよいわけです。

広い意味での情報を記録した媒体(メディア)が書籍であるとして、その形は時代に応じて変遷しています。昔は語り伝えであったものが石に刻まれ板に書きつけられるようになり、さらに紙に印字されるに至って今でいう書物が発達を遂げました。さらに最近では、大容量でコンパクトなメモリー媒体として半導体チップとか光ディスクが登場し、電子ファイルといった形で大活躍を始めています。

電子ファイル化された書籍の場合には、パソコンなどの情報機器や通信ネットワークの助けを借りて目当てのものの在処を即座に探し出し、中味の表示や印刷もやってくれます。石や板などの古代のメディアが、半導体チップや光ディスクという形で現代によみがえったという意味で、メディア・ルネッサンスが始まっていると言えます。

このような情報システムの導入によって、書籍へのアクセスの仕方は非常に簡単になりますが、そこに蓄積された中味の理解と利用は我々自身が行わなければなりません。調べれば調べるほどわからなくなるケースも出てくるはず。その時

に我々自身の研究といったものがスタートすることになります。何がわからない事がわかる所、我々が進めるべき研究の原点となる所、それが図書館である、と言ってもよいでしょう。

(工学部教授 もりかわ・たきたろう)

## 神武天皇が呆れている

小 柴 典 居

図書館の使い方には、大別して、わからない事がわかる所、最新の情報を得る所、古い情報を確認する所、の3通りあると思われる。

学生諸君の使い方としては、主として第1番目の“わからない事がわかる所”であろう。しかし、果たして学生諸君は本来の使い方をしているであろうか? いや、一部の心ない学生諸君が、著しくゆがんだ使い方をしている事を憂慮しているのは、筆者だけではないと思う。

ゆがんだ使い方の第1は、いかにも学習してきたかのように見せ掛ける、偽レポートの作成場所にしていることである。神武天皇がこりゃ古いと呆れそうな、真空管回路などの書かれた博物館行きの古い本から、レポート用紙2・3頁分丸写しして、いかにも実験したかのように見せ掛けのデータをつけて、なにくわぬ顔で提出するのである。

もっとも、心ない学生がこんな不真面目なレポートを提出するのは、教員の側にも責任が無いとは言えない。レポートの内容を見もしないで、2・3枚何か書いた紙切れが付けてあれば、それで済ませてくれる先生もあると、真面目に努力している学生達からしばしば不平を聞かされる。

第2は、授業の度毎に図書館にテキストを借り出しに行き、テキストを購入しないで済ませるのである。あげくの果てには、係員の目をかすめて失敬する者もあると聞く。人気のある本は、何度買っても補充してもすぐに無くなると図書館員は嘆いている。このような無法な手段を使って、仮に単位が取れたとしても、おそらく罰当たり以外に何も身に付くものはあるまい。

図書館とは、すべての学生諸君が、いつでも見たい本が自由に見られ、“わからない事がわかる

所”でなくてはならないのである。少数の心ない学生のエゴのために踏みじられてはならない。

(工学部教授 こしば・つねおり)

## う た た ね

——東洋大学分煙運動の起源——

中山 伸 樹

医師の目配せでステンレス製の大蓋が降ろされた。真っ暗になった。ゼラチン状の詰め物がブヨブヨと気味悪い。このカプセルが人体冷凍保存装置に入れられれば、48歳の晴子は生きたまま凍結し、362年後の2500年に蘇生される契約だ。ギチギチというつり上げの音を聞きながら、薄れゆく意識、流れゆくイマジネーション……。

思いがけず30年前の大学のゼミ場面と黒板の文字〔読者へ：要点のみ。乞う、各自補足全面展開〕。……資源としての時間、個人の生と社会（類、種）の生、機械と人間の違い、講壇（アカデミック）情報とマスコミ・世間情報の異同、「特殊・個別」に生きて「普遍」に還ること、体験実感時間と情報収集鑑賞学習時間のバランス問題、自然改造の禁欲線、時間秩序破壊の禁止………そうだ！わかる！生を引き延ばしちゃいけないんだ、止めて止めて、未来を見るより作らなきゃ、あたしは今を生きたい……………グホグホググホン。

咳こんで、目が覚めた。ブラウジングコーナーからタバコの煙が流れて来ている。……………まったく、学費払って命縮めたんじゃないよ。食堂も廊下もこの学校煙だらけ。そういや、閲覧室もあっちこっち大きな声のおしゃべりで、マナー悪いんだよね。けど小学校みたくな先生とかが注意して回るのもヤダし。これが日本の市民社会、か。憂えちゃうなあ。文句いわなきゃ良くなんないけど。ん！？！？！？あっ、そうそう、ゼミ論文のテーマ見つけ！ただでは起きないこの根性。「日本社会とタバコ」、もっと絞って「大学と嫌煙権」かな？へっへっへっ、ここは図書館、物申す論理と資料があたしを待ってる。単行本は『日本件名図書目録』、雑誌論文は『雑誌記事索引』の先ずは累積索引版、と。……………晴子はさっそく

タバコ関係の文献を探しはじめたのだった。

(社会学部助教授 なかやま・のぶき)

## 唯一の存在

それはあなたです

小 川 純 生

この文を読んでいるあなたは、全宇宙で唯一の存在です。そして、その唯一の存在をこれから変化、あるいは展開させていくのは、あなた自身です。

現在、あなたは時間と空間の交点に立っています。生まれてから現在まで、あなたはいろいろな事を学び、経験してきました。そして現在という時点において、あなたはいろいろな人あるいは事と関係を持っています。あなた自身の空間的広がりにおいて、その中心にいるわけです。そして更に、これからあなたはいろいろな事を学び経験するはずです。その意味において、時間軸と現在における空間軸の交点に位置しているわけです。どちらの軸においてもあなたが中心なのです。

この世に生まれて、家族に育てられ、幼稚園から高校まで教育という形あるいはその他のどのような方法であろうと、さまざまな事を学習してきたことと思います。過去から現在までの時間的な広がりとしてそれぞれの時点における空間的広がりにおいて、それらの情報をあなたなりのやり方で収集・処理してきたことになるわけです。その結果、それは量的にも質的にもあなた独自のものです。そしてその情報の保持の仕方は、他人が持ち得ない唯一あなただけの組み合わせで行なわれているはずです。このことを極言すると、あなたの持っているその情報の組み合わせ、それがあなたそのものと言えるのです。このような意味において、あなたは全宇宙で唯一の存在なのです。

授業を聞く、図書館に行く、バイトする、デートするなど、そのどれもがあなた独自の情報の組み合わせを形成する有効な情報です。どのような情報の組み合わせを作っていくのかは、全くあなた自身の自由なのです。自分を創ることを大いに楽しんで下さい。

(経営学部講師 おがわ・すみお)



# こんにちは ようこそ！

『大学図書館』——なんとなく、知的だけれど近よりがたい感じ。でも、ほんとうはみなさんの強い味方。はじめて本学図書館を利用する方へのかんたんな、自己紹介です。

高校まで学校にあったのは（たぶん）「図書室」ですが、大学は「図書館」。建物は今までよりも大きいし、資料の数も膨大。そこで働く職員も多い。それから、ビデオやレコードを見たり聴いたり、映写会などもあったりで、楽しみはいろいろ。そして、なにより大学図書館の特色としては、他大学図書館などとの相互協力制度により、国内のいろいろな図書館とつながりがあることです。他大学図書館の資料を利用することもできます（詳しくは各館のカウンターで尋ねてください。また、8ページの「あ・ら・かると」の関連記事もご覧下さい）。

それでは、朝霞、工学部、白山の各館より、歓迎の意を込めたごあいさつを——。

## ＜朝霞＞

大学生活が朝霞キャンパスから始まるあなたに是非とも足を運んでいただきたいのが、本学100周年を記念して建てられた朝霞分館です。今年5年目ということで、まだまだそこここに新しさが感じられます。

10万冊を超える蔵書数、そのほとんどが朝霞分館の特色の一つ、開架方式になっています。1階から3階まで書架に並らぶ図書や雑誌等、自由に閲覧できます。朝霞キャンパスでの2年間の勉強に、きっとお役に立てると思います。

もう1つの特色として、視聴覚（AV）室があります。教材・教養関係はもちろん、音楽・スポーツ・劇映画などの分野のものまで、6種類のソフト（資料）が揃っています。個人視聴室ではこれらの資料が自分で機器を操作しながら視聴でき、ホールでは毎月上映会等の催物が行われます。

広くてきれいな建物と、たくさんの図書や雑誌、そして視聴覚室がお待ちしています。朝霞のキャンパスライフの思い出の1つに加えて下さい。

## ＜工学部＞

“必要にせまられて行く”それが工学部の図書館です。『やったぜ、今日から俺も大学生だ。勉強よりも遊びだ、バイトだ。』残念でした。そうはいかないのが工学部です。毎週毎週実験に次ぐ実験、そしてレポートの締切日があなたを追いかけます。そんな時、正義の味方ならぬ勉強の味方の図書館がみなさんをお待ちしています。専門辞書・事典も豊富にあります。もちろん、語学の辞書もそろえています。

勉強だけの学生生活なんて……という方にも、図書館はお役に立ちます。第1に新聞。アパート暮らしのあなた、新聞は図書館で読むのが毎朝の日課になりそうですね。第2に雑誌。一般教養から専門まで、新刊がズラッと並んでいます。その上、バックナンバーまで保存してあるのです。そして第3は視聴覚。語学テープで必修のドイツ語もラクラク。その他、使い方次第で、大学生活をエンジョイすることができるはずです。これも何かの縁、どうぞ、図書館とおつき合い下さい。

## ＜白山＞

本学の中では一番大きな図書館です。蔵書数は50万冊を上まわり、職員の数もアルバイトを含め40名を超える人員で運営されております。

白山の図書館は、一見したところ、蔵書が少なくないように思われますが、実は、大部分の本が利用者のみなさんの見えないところに置いてあるのです。ですから、本が見つからない時にも、すぐにあきらめないで、係に相談をして下さい。

本学の教職員の著作のうち、図書館に寄贈していただいた本は、開架書庫内の教職員著作コーナーにまとめて置いてあります。また、おもしろい本を集めた軽読書コーナーが、3階第3閲覧室に設けられています。どうぞ、ご利用下さい。

晴れた日には、屋上から富士山も見えます。みなさんの来館を心よりお待ちいたしております。

## 貴重書から

## 『詞花和歌集』

——初度本系統の一伝本——

千 艘 秋 男

『詞花和歌集』は第6番目の勅撰和歌集である。撰者は藤原頭輔(1089~1155)。六条藤家の歌人が単独で撰者になった唯一の勅撰集である。

『詞花集』の撰集下命の事情に関しては、藤原清輔(頭輔の息)の『袋草紙』の「故撰集子細、詞花集の条」に詳しい。「新院御讓位之後、故左京一人撰之。云々」とある記述から、奉勅は天養元年(1144)6月、選歌範囲は中古以後(『後撰集』時代以降)の歌、勅撰集未入集歌との条件付きで、新院(崇徳院)が故左京(頭輔)に下命、参議藤原教長が伝えたことが判かる。頭輔は下命から7年後の仁平元年(1151)に第1次(初度)本を完成、奏覧したが差戻され、修正整備し、院の命による御製など数首を除いた第2次(精撰)本を奏上し、嘉納となった。頭昭(頭輔の猶子)の『詞華集注』等に拠れば、一族や子息に撰集を助力させ、『金葉集』を範として編纂に努めたことが判かる。このような成立過程を有するため、現存諸本には2系統が存在する。が、両本間の基本的な差は被除歌の有無にあり、歌人の位署等にも殆ど相違はないから、精撰本も仁平元年中には成立したと推定される。部類は四季4巻、賀1・別1・恋2・雑2巻の計10巻から成り、『拾遺抄』『金葉集』のそれに倣う。総歌数は409首で歴代勅撰集中では最も小規模な撰集である。書名を『詞華(花)集』(秀れた和歌集の意)としたのも『金葉集』への強い意識の表れと言えよう。

さて、本書の書誌的な事柄を記そう。袋綴、1冊。表紙は薄鼠色で、下方に焦茶・薄緑・薄茶(裏表紙は焦茶・薄緑)色の石竹(唐撫子)の模様を描く。上方に横一条の金泥を引く。縦24・9糎、横17・5糎。本文料紙、楮紙。題簽はなし(左肩

に元題簽貼付の痕跡あり。内題は「詞花倭歌集巻第一／春哥」と記す。毎半葉10行に詞書・作者名・歌(1首1行)をはば別行に2~4首を書写する。墨付52丁(但し、原態は65丁か。これに関しては後述する)。前後1丁ずつ表紙共紙。蔵書印は初葉に「小汀氏蔵書」、表紙見返しに「東洋大学図書館蔵」(子持杵)の各朱陽印、この外に3種類の印を捺す。本文の奥に「天正三年二月吉日／書之」とあり、墨陰印の落款(人名未詳)を捺す。因って本書は安土桃山時代の天正3年(1575)の書写本であろう。本文中には緒の訂正2箇所、墨の訂正7箇所、墨の補入等13箇所が存する。

本書には諸本と比較すると、歌の脱落が見られる。伝本分類の際の基本的な目安となる11首(『新編国歌大観』の8・11・199・239・379・403・416・417・418・419・420番歌)は別扱いとし、それ以外の歌で問題となるのは次の2箇所86首である。

第1には、巻4の末(22ウ)の4首(紙幅の都合で掲出はしないが、157~160番歌)が闕落しているであろう。この4首は本書の書様から推して、詞書・作者名・歌で10、11行を要し、丁度半葉分に相当する。これらは書写時の闕落とは考えにくい。何故なら、156番歌の後に2行分の間隔をとり、他と同様に「詞花和歌集巻第五／賀哥」と書き出しているから。即ち、この4首は本書の底本に闕落があったと考えるべきであろう。

第2には、巻7の全部(28オ~34ウに相当か)と巻8の殆ど(35オ~40ウに相当か)との82首が闕落しているであろう。ここも書様からの推測ではあるが、巻7が7丁分46首(199番歌を有すると考える)、巻8が6丁分36首(239番歌を有すると考える)の計13丁分82首に相当するか。この部分は書写時の闕落ではなく、本来存在したものが、伝来の過程で散佚したと考えられよう。何故なら、28オの1行目は「和泉式部」で、次行は269番歌である。従って、前丁の9、10行目には詞書「同じ所なる男のかき絶えにければ読る」が書写されていた可能性が高いと考えられるから。

本書には前述の通り2箇所において歌の脱落を見るが、反面、諸本には所収されることの少ない次の3首が存する。一つは巻5末(24ウ)の「すみよしの… 良暹法師」(仮に171B番歌とする)、



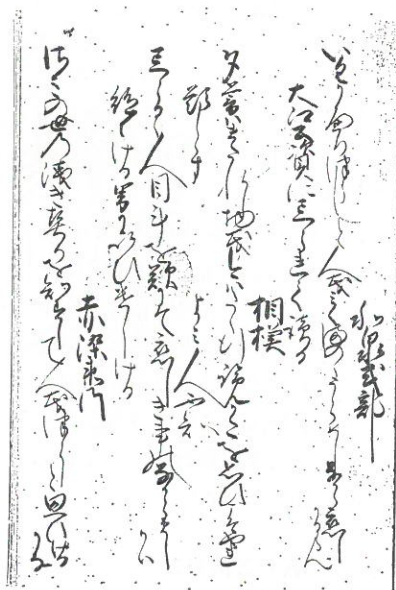
正しくは源頼政の歌で、語句にも小異がある。二つは巻6(26ウ)の「天河… 前大納言公任」(仮に181B番歌とする)、これは『後拾遺集』所収の497番歌と同歌である。三つは巻8末(28オ)の「さきの世の… 赤染衛門」(420番歌)、これは伝本分類の際の目安となり、重要な意味を持つ1首と言える。即ち『詞花集』諸伝本中、419・420番歌の2首はごく少数に存するもの。本書は419番歌を闕くが、420番歌を有する。今日、当該歌を有する伝本は広島大学本・宮内庁書陵部(155・65)本とのこと。本書と広島大学本の間には書承関係は認められない。書陵部本は烏丸資慶(1622～1669)写と伝えられる由、然らば江戸初期の写本と言うことか。書陵部本との関係如何は披見の機会を得ていないので、後日精査し、要すれば報告の機会を得たい。

なお、緒の訂正や墨の補入が存することは前述したが、この外他本との校合を示すもの(イ符号)が3箇所ある。それらは検するに、本書の書写後の校合によるものではなく、底本の写しと考えられる。因みに、現存の主要伝本中には、本書の校異に該当する本文を有するものは見当たらない。

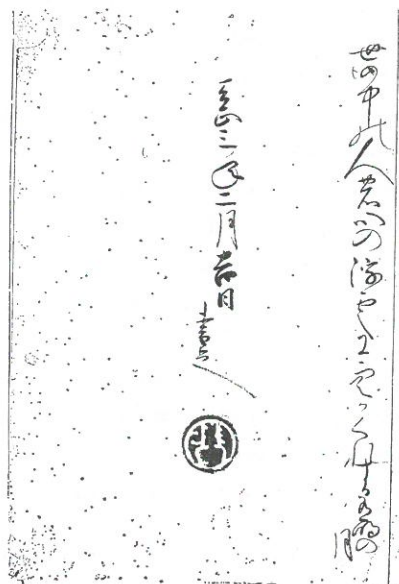
以上、本書の概略を記してきた。最後に、井上宗雄博士の最新の研究成果(天理善本叢書69『詞花和歌集』解題、昭和59年)に拠りつつ、本書の伝

本分類と特徴とを述べておこう。前述の11首の考察や内容検討の結果、本書は分類としてはⅠの(四)(中間本)に相当する一本であり、「初度本系統で被除歌6首の内、2, 3首程度をさまざまな形で有する本」と言うことになる。伝本分類の際の基本的な目安になる8・11(199・239番歌をも有するか)番歌と、目安の対象となる416・417・420番歌とを有するからである。本書は初度本と精撰本との中間の形態を持ち、「初度本・精撰本の何れかを底本として接触した結果、形態的に中間のものとなったもの」と言えよう。勿論、本書の評価や位置づけは、詳細な本文検討、171B・181B番歌の混入状況の考察等を通して為されるべきである。そのためにも、巻7・8の脱落は伝本分類の判断資料たる199・239・263番歌の有無を確認する方便を奪ったわけで、洵に惜しむべきことではある。しかし、本書が416・417・420番歌を、殊に420番歌を有することは、『詞花集』の撰集段階から最後の完成段階までには様々な内容を持つ伝本を生ぜしめたことの実証にもなる。このような観点から、本書は肝要な部分を闕くものの、なお、伝本研究に寄与するに十分な価値を有するのであり、貴重な一本であることは言うまでもない。

(文学部助教授 せんそう・あきお)



——『詞花和歌集』巻8, 巻末——



——『詞花和歌集』最終丁——

留学生のみなさんへ



ようこそ、東洋大学へいらっしゃいました。図書館には、新聞・雑誌・辞書・事典のほか、一般教養図書や勉強のための本がたくさんあります。有効に使って学生生活に役立ててください。図書館にない資料は、他の大学や機関に複写を申し込むこともできます。また、本の購入希望も受け付けています。わからない事や相談したい事があったら、お気軽にカウンターの係員に声をかけてください。お待ちしております。

For the information of foreign students

Welcome to Toyo University!

There are a lot of books for study or liberal education in our library.

Of course, there are various kind of newspapers, periodicals, dictionaries, encyclopedias, and so on.

Please make good use of these materials for your study.

If you can't find the materials you need, you can apply to other university or institution for copy service.

And we receive requests for books' purchase.

Have something not to understand or to consult, please readily call out to clerks behind the counter.

We are waiting for your visit!

## 留学生們

歓迎你們到東洋大学来学日本學問。

我校圖書館有很多報紙，雜誌，辭典，還有多教育書，研究書等等。請你們把那些書用在學生生活上吧。

要是你們需要的資料在我校圖書館里沒有的話，有辦法；我們圖書館員給你們複寫別的圖書館的資料。除這個辦法外，你們可以把需要的書籍申請。

你們在學習上有什麼困難，只管問問吧。

我們等着你們到圖書館來。

## 図書館 あ・ら・かると

### ★他大学図書館の利用を希望される方に★

情報量の増大とともに、ひとつの図書館で欲しい資料の全てを利用することは、ますます困難となってきております。そこで、全国の各大学図書館、専門図書館などでは相互に協力しあって、利用者の要望に応じています。このような制度の下で本学学生も、他大学の図書館等を利用することができますが、公共図書館を利用するのは、また違った約束事＝ルールがあります。つまり、それらの図書館を利用するに際しては、本学図書館発行の紹介状（閲覧願）が必要となっております。紹介状を持参せずに訪問しても利用することはできません。

紹介状はカウンターで発行しています。他大学の図書館の利用を希望される方は、必ずカウンターでご相談下さい。

また、直接他大学図書館等に行かなくても、雑誌論文のコピーを郵送してもらうこともできます。書名・雑誌名・巻号・出版年・著者名・論文名等、データが多いほど確実に文献を入手することができます。費用はコピー代、郵送料等実費負担となりますが、所蔵館の調査から申込み、入手まですべて、図書館職員がお手伝いします。遠慮なくお申し込みください。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN **ΚΟΣΜΟΣ**

1990 春 (No. 89) 1990年3月13日発行 編集：コスモス編集委員会 発行人：早田芳郎 発行所：東洋大学附属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03 (945) 7314 ©東洋大学附属図書館 1990